団塊びと

この日「混声♪青葉」は合唱大会出場に向けて猛練習。団員は60～90代＝横浜市青葉区の自宅スタジオ

来年1月29日「男のコーラス・ドッグウッド」が、昭和音楽大学南校舎内のホール「テアトロ・ジーリオ・ショウワ」（川崎市麻生区）で公演予定。問い合わせはオフィス・バルーン☎045（901）9914

ひらり放課後

教えつつ、支えられつつ シニア世代の能力を引き出す

声楽家　コーラス指導者　酒井　沃子（ようこ）さん［67］

「間奏からの入り方を変えましょう」「背筋を伸ばして臨機応変に動いて」。楽譜を手にぽんぽんと指示を出す。60人近いシニア世代が即座に応じる。1998年から主宰・指揮をするコーラスグループ「混声♪青葉」の練習風景だ。

元は横浜市老人クラブ連合会の活動として結成され、指導を頼まれた。「当初は指示通りに手拍子やステップをできないと、『なぜできないの？』と不思議でした。今となればいかに無理難題を押し付けていたかわかるけれど、指導スタイルは変えない。変えたら団員が心配するもの」

団員側は「高齢者相手でも妥協しないで教えてくれるのがありがたい」「練習は苦しいけれど、本番が終わると『もっと練習すればよかった』といつも思う」と信頼を寄せる。

●●●

「混声♪青葉」以外に女声、男声のシニアコーラス団を主宰する。きっかけは30年ほど前。大学で声楽を学んだ経歴を知った地域のシニア女声コーラス団から、発声を教えてほしいと頼まれた。最初は戸惑ったが、「メンバーの皆さんが、歌の大好きだった母の姿に重なり」引き受けたところ、指導すればするほど声が出ることに驚いた。これが女声コーラス「フレッシュ・ピュア」に発展する。

一方、「女性は元気だけど、定年退職した男性はどうなんだろう」と、自宅のある当時の横浜市緑区（現在は青葉区）に男声コーラス講座を提案。修了生を中心に「男のコーラス・ドッグウッド」が誕生した。

「アマチュアはプロに支えてもらうことで魅力をより発揮できる」と、公演の際はプロのフルート奏者や演出家も依頼する。「単なる発表会でなく、会場の皆さまに心から楽しんでもらえるステージを作りたい。舞台と客席が一つになるコンサートを目指し、団員は半端でない努力をします」

●●●

「鳴かぬなら鳴かせてみせる」をモットーに「容赦なく」「言いたい放題」指導するが、実は団員に支えられ教えられてきたという。「イヤなことがあったとき、それを話したら皆が笑い飛ばしてくれて救われた」り、指導の際強く言い過ぎて気にしていたら、「この年齢になって怒ってもらえるのは小気味いいです」と言われて感じ入ったり。

シニア世代のチャレンジの場として「65歳からのアートライフ」「昔を　今を　今歌う会」など人前で歌う場も多く設けてきた。今後は自分が人生を楽しむ場をつくりたいという。もちろん、公演が終わったとたん「次はどんなことをやろうかと考えがムクムク湧いてくる」シニアコーラス指導も、まだまだ続きそうだ。

（文・北川原　美乃　写真・浅川　将道）

◇

ユニークな活動を行う中高年の方を募集中です。当人の活動内容と連絡先を明記し、〒231－8445、神奈川新聞報道部・団塊びと係へ。ファクスは045（227）0150。採用の場合のみ連絡します。